

JR嵯峨野線 京都・丹波口間新駅設置事業について

本市では、魅力ある多彩な地域資源が集積し、京都の成長戦略を進め、都市格を高めていくうえで重要な地域である「京都駅西部エリア」の活性化を図るため、JR嵯峨野線 京都・丹波口間新駅（以下、「新駅」という。）設置事業をすすめています。

本市とJR西日本において、平成27年2月に事業に関する基本的な事項を定めた「基本合意書」を締結し、両者で設計検討をすすめ、平成31年春開業に向け取り組んでいます。

このたび、今年9月下旬の工事着手に向け、新駅設備の概要、および新駅の特徴（デザインイメージ）をJR西日本がとりまとめましたので、御報告いたします。また、新駅周辺施設整備につきまして、本市が昨年度から実施している予備設計において、整備案をとりまとめましたので、その概要、並びに事業の進捗状況及び今後の予定について、あわせて御報告いたします。

1 新駅設置事業の概要(施工主体:JR西日本)

(1) 新駅設備の概要 **資料1**参照

高架下駅舎（約 1,000㎡）

ホーム（上り下り両側2面 延長165m、幅3.0m～6.7m）

旅客上屋、エレベーター2基、エスカレーター4基

自動改札4通路、券売機3台

(2) 新駅の特徴（デザインイメージ） **資料2**参照

- ・京都の町並みの「縦格子・縦縞」
- ・京友禅の反物の「縦長矩形」
- ・はんなりとした“色彩”
- ・工芸品の「梅柄（光琳梅）」



(3) 事業費

約49億円（JR西日本：約19億円，本市：約15億円，国：約15億円）

(4) 事業期間

今年9月下旬に工事着手し，平成31年春の新駅開業を目指します。

2 新駅周辺施設整備の概要（施工主体：京都市）資料3参照

(1) 梅小路公園再整備

・新駅周辺の歩行者空間を整備するとともに，新駅により影響が生じる大型バス駐車を，効率的かつコンパクトに再整備します。

・事業費 約3.3億円

・実施時期 平成28年度 詳細設計
平成29年度 工事着手
平成30年度 工事完成

(2) 新駅と賑わいゾーンを結ぶ歩行者空間の整備

・廃止された短絡線を利用した横断歩道橋を整備します。雨にぬれることなく新駅から賑わいゾーンにアクセスできるようにするため，屋根を設置する予定です。

・エレベーターを2基設置し，バリアフリー化を図ります。

・事業費 約5.2億円

・実施時期 平成28年度 詳細設計
平成29年度 工事着手
平成30年度 工事完成

(3) その他

・上記(1)，(2)の他に，新駅周辺に新たに設置する駐輪場の整備等を実施する予定です。

3 進捗状況及び今後の予定について

年度	新駅本体	新駅周辺施設整備
H26	新駅設置に関するJRと基本合意書の交換 (H27.2.2)	
H27	詳細設計，関係機関との協議	梅小路公園再整備の基本設計 新駅と賑わいゾーンを結ぶ歩行者空間 整備のための調査・検討 等
H28	安全祈願祭・起工式典 (H28.9.19 (月・祝)) 工事	梅小路公園，新駅と賑わいゾーンを結ぶ 歩行者空間整備及び駐輪場の詳細設計
H29	工事	周辺施設の工事
H30	工事 ※平成31年春開業	周辺施設の工事 ※新駅と同時完成

工事中は，皆様に御迷惑をおかけしますが，安全に配慮して工事を進めてまいりますので，御理解御協力いただきますようよろしくお願いいたします。